シラバス/Syllabus

■ 授業情報/Course Information

授業コード/Class code	97168000		開講キャンパス/Campus		大阪梅田キャンパス／Osaka Umeda Campus
授業開講年度/Academic Year	2024年度		オンライン授業60単位制限対象科目 The 60-credit limit for online courses		
管理部署/Administrative Department	経営戦略研究科／Institute of Business and Accounting				
【科目ナンバー】授業名称 【Course Number】Class Title	【550】イノベーティブ・シンキング／Innovative Thinking				
単位数/Credit	2	履修期/Term	秋学期前半／Fall (1st Half)	曜時/Day and Period	水曜6時限／Wednesday 6
担当者/Instructor	清水　詠(SHIMIZU EI)				
履修基準年度 Standard Year for Registration	1年				
履修登録方法 Types of course registration	本登録				
主な教授言語/Language of Instruction	日本語／Japanese				
授業形態 Course Implementation Format	対面授業/Face to face format				
授業目的/Course Purpose	本講義は、「思考の発散と収束」「多視点からの可視化」「構造化と変化」を行うイノベーティブシンキングを適切に用いながら、社会に新しい価値や価値の変化をもたらすプロダクトやサービスなどをシステムとしてデザインする事を目指す。				
授業目的（英文） Course Purpose	This lecture helps design products and services as systems that bring new value and changes in value to society. While utilizing innovative thinking, you will practice ″divergent thinking and convergence thinking,″ ″visualization from multiple viewpoints,″ and ″structuring and change.″				
到達目標/Learning Goals	本講義では「イノベーティブ・シンキング」の考え方と使い方の基礎を習得すると共に、イノベーティブに問題を解決するための基本的なプロセスを習得することを目標とする。目標は大きく分けて2つに大別される。第一にイノベーティブ・シンキングの考え方と使い方を体得し、実践できることを目指す。第二にイノベーティブ・シンキングをの基本プロセスを習得し、自らの課題に対して自由に適用出来ることを目指す。				
到達目標（英文） Learning Goals	The learning goal is to master the basic concept of innovative thinking and its application and acquire the generic process for innovatively solving problems. (1) To acquire the way of thinking, understand the usage of innovative thinking, and practice it. (2) To acquire the generic process of innovative thinking, aiming to apply it to solve your own problems.				
授業の概要・背景 Course Outline	事象を分析的に考えることは重要であるが、イノベーション創出においては統合的及び創造的に解を生み出すことが求められる。そのため、本講義は主に(1)理論の習得と(2)実践での活用を狙った2つのフェーズにより構成し、統合的及び創造的な思考プロセスの習得を試みる。前半から中盤においてはイノベーティブに考える事の重要性についての理論的背景と、実践的手法としてイノベーティブシンキングの手法について学ぶ。後半においては学んだ手法を活用して経営に関わる実際のテーマについてイノベーティブなソリューションを創り出すことを学ぶ。本講義は協力企業（プロポーザー）から提示される課題（プロポーザル）対して、複数名で構成されるグループ単位で演習を行い、ソリューション案を作成して発表を行う実践的な講義となる。				
授業方法 Course Format	本講義は【全講義ハイフレックス】+【オンデマンド講義(予習教材)】により実施する。講義で使用するzoomのリンクは下記の通り。特別な指示がない限り、最終回まで同じリンクで講義を行う。 ---------- ※開講日一週間前までにLUNAで告知します ---------- ※講義の効果を最大化するために、社会情勢や受講生人数などを考慮の上、講義の構成や順番を変更することもある。（習得内容、到達目標は変更無し） 1.予習【オンデマンド講義】・LUNAまたは関学Onedrive上にある予習教材を用いて、知識の理解を深める ・各回2時間程度の予習時間確保が必要となる 2.講義【ハイフレックス講義】・zoomによるライブ配信講義と梅田キャンパスでの対面講義で実施（受講生は都度任意の方法を選択可能） ・zoomまたは対面講義に関わらず、予習を前提したディスカッションとオンラインホワイトボードツール”miro”を使用したグループ演習を中心に実施する ・講義日以外のディスカッションやQ&Aセッションはビジネスチャットツール”Slack”または他のツールを活用しする 3.復習または成果物(期末レポート、ミニレポート等)作成 ・Zoomの機能でそれをビデオ収録し、関西学院のOneDriveに保存し、閲覧可能にする。（トラブルにより録画不可の際は別方法により対応） ・講義期間中にミニレポート2回（計60分程度の作業を想定）、期末レポート1回（過去の受講生実績で計5時間程度の作業を想定）の作成 ＜本講義で使用するツール一覧＞ それぞれのツールの基本的な使用方法、登録方法は講義でも触れるが、可能な限り事前に使用して習得しておくことをお願いする。※検索すると各ツールの使用方法がnoteやYouTubeに多数掲載されています ※初日のzoomのリンクは前日にLUNAに掲示及びメールで伝達します ・zoom https://zoom.us/jp-jp/meetings.html ・miro https://miro.com ・Slack https://slack.com/intl/ja-jp/ その他これまで通りLUNA、OneDriveも利用する。				
関連科目/Related Courses	システムシンキング、システムデザイン演習、テクノロジーマネジメント、イノベーション経営				
検索キーワード/Keywords	経営戦略、デザインシンキング、システムシンキング、デザインプロセス、イノベーション、プロダクトデザイン、サービスデザイン				

	授業計画 Topic	授業外学修 Study Required Outside Class
第1回 Session 1	＜イントロダクション＞	
第2回 Session 2	＜イノベーティブ・シンキング概論＞ 社会に価値をもたらすために必要な思考法や手法であるイノベーティブ・シンキングについて概要や時代背景について説明する。また、イノベーション創出手法と言われているデザイン思考についてもその誤解と本質についても解説する。	
第3回 Session 3	＜問題定義(1)＞ イノベーティブなソリューション構築に欠かすことが出来ない、イノベーティブな問題定義を作り出す、基本的なプロセスについて学ぶ。問題定義の基本的な考え方や、イノベーティブ・プロブレム・スペースの発見方法について、時間軸/空間軸/意味軸の観点からディスカッション及び演習を行う。	
第4回 Session 4	＜問題定義(2)＞ イノベーティブなソリューション構築に欠かすことが出来ない、イノベーティブな問題定義を作り出す、基本的なプロセスについて学ぶ。問題定義の基本的な考え方や、イノベーティブ・プロブレム・スペースの発見方法について、時間軸/空間軸/意味軸の観点からディスカッション及び演習を行う。	
第5回	＜問題定義(3)＞ イノベーティブなソリューション構築に欠かすことが出来ない、イノベーティブな問題定義を作り出す、基本的なプロセスについて学ぶ。問題定義の基本的	

Session 5	な考え方や、イノベーティブ・プロブレム・スペースの発見方法について、時間軸/空間軸/意味軸の観点からディスカッション及び演習を行う。	
第6回 Session 6	＜問題定義(4)＞ イノベーティブなソリューション構築に欠かすことが出来ない、イノベーティブな問題定義を作り出す、基本的なプロセスについて学ぶ。問題定義の基本的な考え方や、イノベーティブ・プロブレム・スペースの発見方法について、時間軸/空間軸/意味軸の観点からディスカッション及び演習を行う。	
第7回 Session 7	＜提供価値(1)＞ 問題定義から発見されたインサイトを元に、提供価値を検討するための基本的なプロセスについて学ぶ。価値とは何か、提供価値とは何かという基本的な概念やそれらを検討する為のフレームワーク等についてディスカッション及び演習を行う。	
第8回 Session 8	＜提供価値(2)＞ 問題定義から発見されたインサイトを元に、提供価値を検討するための基本的なプロセスについて学ぶ。価値とは何か、提供価値とは何かという基本的な概念やそれらを検討する為のフレームワーク等についてディスカッション及び演習を行う。	
第9回 Session 9	＜ソリューションコンセプトの構築(1)＞ 新しい解空間から生み出されたアイデアを元に、ビジネスとしての価値循環を実現するためのソリューションを構築するためのプロトタイプについてディスカッション及び演習を行う。	
第10回 Session 10	＜ソリューションコンセプトの構築(2)＞ 新しい解空間から生み出されたアイデアを元に、ビジネスとしての価値循環を実現するためのソリューションを構築するためのプロトタイプについてディスカッション及び演習を行う。	
第11回 Session 11	＜ソリューションデザイン(1)＞ これまで講義で習得した手法を用いて、プロポーザーに対するソリューションを設計する。	
第12回 Session 12	＜ソリューションデザイン(2)＞ これまで講義で習得した手法を用いて、プロポーザーに対するソリューションを設計する。	
第13回 Session 13	＜プレゼンテーション＆フィードバックセッション＞ 設計したソリューションについて発表を行い、クラス全員でフィードバックを行う。	
第14回 Session 14	＜まとめ講義＞全講義のまとめを行う	

授業外学修 Study Required outside Class	参考文献等の予習と講義の復習を行う。 また期末レポート作成にあたり、授業時間外に調査やインタビューを行う必要もある。

教科書 Required texts	オリジナルスライド及びオリジナル教材を使用
参考文献・資料 Reference books	「世界標準の経営理論」入山章栄著 「SHIFT：イノベーションの作法」濱口秀司著「デザイン思考が世界を変える―イノベーションを導く新しい考え方」ティム・ブラウン著「インテグレーティブ・シンキング」ロジャー・マーティン著「価値づくり設計」石井浩介共著「ビジネスモデル全史」三谷宏治著「経営戦略全史」三谷宏治著「日本のイノベーションのジレンマ」玉田俊平太著「ジョブ理論」クレイトン・M・クリステンセン著「イシューからはじめよ」安宅和人著 「起業の科学 スタートアップサイエンス」田所 雅之著 「bootcamp bootleg 」Hasso Plattner Institute of Design at Stanford著 「UXグロースモデル」藤井保文共著「ジャーニーシフト」藤井保文著「イノベーション対話ツール」文部科学省発行
学生による授業評価の方法 Course Evaluation by Students	最終回の授業内で実施する。
学位授与の方針との関連 Relationship to Diploma Policy	各授業科目は、各学部・研究科の定めるディプロマ・ポリシー（DP）・カリキュラム・ポリシー（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。 DP・CPを意識して本授業科目の学修を進めることで、各学部・研究科の期待する能力が養成されます。 各学部・研究科のDP、CPや教育課程表（授業科目一覧等）は、下記リンクこちらに掲載していますので学修計画の参考にしてください。 https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/reference?typeCd=0&cabinetId=557&directLink=1 ※kwicへのリンクとなります（在学生のみ閲覧可）

	種別 Type	割合 Percentage	評価基準等 Grading Crireria etc.
成績評価 Grading	平常リポート／Individual reports(04)	50%	期末試験（レポート試験）
	その他／Others(99)	50%	2回程度の事前ミニレポート（20%）クラス貢献（30%）
	備考 Note 正当な理由なき欠席は減点の対象とする。		
備考　Note	本講義は受講者の多様性を確保するため、5名以上の科目等履修生を受け入れる可能性があることをご了承下さい。 また、受講者数や授業の進捗により、授業内容の入れ替えや変更をする場合があることをご了承下さい。		
更新日時/Date of Update	2024年02月21日　09時14分11秒		

■ 教室情報/Classroom Information

項番 No.	履修年度 Year	開講期 Term Offered	曜時 Day and Period	使用開講期 Term for Classroom Use	教室情報 Classroom
1	2024年度	秋学期前半／Fall (1st Half)	水曜6時限／Wednesday 6	秋学期前半／Fall (1st Half)	OC1004
2	2024年度	秋学期前半／Fall (1st Half)	水曜7時限／Wednesday 7	秋学期前半／Fall (1st Half)	OC1004